連綿と続く建学の精神

10月25日(土)岩高創立90周年記念式典開催

岩高同窓会報

岩村田高等学校同窓会
発行人　原　拓男
編集人　中沢朝幸
佐久市岩村田1248−1
岩村田高等学校内
TEL 0267−67−2439㈹
印刷　恵企画
題字は旧中第21回卒　上嶋桂風氏

母校創立90周年を祝って

同窓会長　原　拓男（高15回）

記録的な大雪に見舞われ長かった冬も過ぎ4月4日の入学式には新たな同窓生を迎える事が出来ましたが会員の皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。日頃は同窓会発展の為ご理解ご協力を賜っております事に感謝申し上げます。又岩高発展のため大変ご尽力戴いた吉岡前校長先生の後任として本校に赴任された池田校長先生も岩村田高校の同窓生であり大いに歓迎申し上げ母校発展のためその持てる力を遺憾なく発揮される事と確信しております。

さて皆様ご承知のとおり私達の母校、長野県立岩村田高等学校は本年、学校創立90周年を迎える事となりました。大正13年（1924年）創立以来、昭和、平成と時を刻み24000人を越える多くの同窓生を送り出した歴史ある我が母校であり青春時代の一番大切な時期を勉学にスポーツに文化活動にと多くの先輩や後輩と過ごした学び舎であります。同窓生の皆様ひとり、ひとりが楽しかった思い出、つらかった思い出がたくさん有ることでしょう。

そんな母校に対し昨年同窓会は長野県が推し進める「魅力ある高校」作りに対応する為の一助として創立90周年記念の前倒し事業の一環として電子黒板を購入し、様々な科目で、おそらく長野県下初の有意義な授業を行なって戴いております。その結果多方面から賞賛と羨望の言葉を戴き同窓会としても誇りに思っているところです。

そんな中いよいよ来年度、平成27年4月から岩村田高校工業科が北佐久農業高校、臼田高校との3校合併により新校（佐久平総合技術高等学校）（仮称）となります。思えば私が岩高に入学した翌、昭和36年（1961年）に開科した伝統ある工業科が岩村田高校工業科として半世紀以上、53年という長い年月を刻み新校へと移ります。岩高の歴史90年の内、半分以上の歴史を持つ工業科の閉科は誠に残念で殊に工業科を出られた同窓生の皆様にとってはまさに断腸の思いであろうかと推察いたします。

しかしながらこの岩高工業科53年の間、日本の高度成長を支える上で必要不可欠な工業技術や電気や電子の技能をもった人材を数多く輩出し岩高工業科の名をおおいに高めて来ました。機械科、電子機械科、電気科という課程も昨平成25年度からは機械システム科、電気情報科、という課程に変わり時代の変化に即応した体制となっていますが来年4月から現在の2年生、1年生は佐久平総合技術高等学校の生徒となります。新校に移っても入学した岩村田高校工業科での学びや班活動などの多くの思い出を忘れず自分の将来のため頑張って戴きたいと思います。

結びに母校の偉大な先輩で本年2月ご逝去された故中島長市郎さんが佐久市と佐久市教育委員会からの委嘱を受け「佐久の先人検討委員会」の委員長として編纂した「佐久の先人」の本が本年、平成26年1月に発刊されました。その「佐久の先人」36人にも選ばれている信濃教育の基礎を築いた岩村田高校初代校長、長洲佐藤寅太郎先生の建学の精神である「質実剛健、上下和順、盛徳有道の士として社会に信頼されるに足る人物たれ」の言葉を忘れることなく同窓会会員の皆様と共に岩高創立90周年を祝い、併せて会員の皆様方のご健勝を祈念しお祝いの挨拶と致します。

節目の年を迎えて

学校長　池田義則

昨年度末の人事異動により、東御清翔高校から転任してまいりました池田義則と申します。私も本校を昭和52年に卒業した同窓生であり、このような節目の年に、母校に勤務できますことを大変光栄に思っております。微力ながら母校の発展に全力を尽くしてまいる所存でございますので、ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、原拓男同窓会長様をはじめ、同窓会の皆様には日頃より物心両面におきまして、多大なるご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。クラブ活動の活性化、電子黒板を活用した授業の充実等は、同窓会のご支援ご協力による成果であるとありがたく思っております。

今年度は普通科203名（5クラス）、工業科69名（2クラス）、合計272名の新入生を迎え、全校生徒数834名、職員総数73名で新年度がスタートしました。

本校にとりまして、今年度は二つの点で節目となる年です。一つは学校創立90周年を迎えることです。本校は1924年、大正13年に岩村田中学校として創立され、今年で90年の歴史を刻むことになりました。これまでの総会員数は24000余名に達し、歴史の重さを示しております。学校創立90周年記念事業の一環として、6月には同窓会名簿が発刊され、さらに、10月25日(土)には、学校創立90周年記念式典が挙行されることになっております。

もう一つは、平成27年度に工業科が佐久平総合技術高校（仮称）に統合されることです。現在、北佐久農業高校に建設中の工業科棟は平成27年1月に完成する予定です。2月、3月に機械の移転及び設置が行われる予定です。これまで、新校準備委員会を85回開催し、細部の検討につきましては、学校運営、進路指導、生徒指導、生徒会組織等各分野ごとのワーキンググループにて進めてまいりました。新校開校まで1年を切り、平成27年3月に行われます閉科式を含め、すべての内容が具体的に実行される段階になってまいりました。

新校開校を普通科の立場から見ますと、平成27年度から本校は1学年5クラス規模の普通科高校となります。これまで以上に進路実績を充実させることが重要な課題となってまいります。以前から実施してまいりました、土曜日授業、学習合宿、早朝補習、保護者のための進学講座等は、内容を充実させて継続します。そして、昨年度までの進路目標を一部修正し、今年度からの3年間で、国公立大学合格者数を各クラス25％程度に上昇させるとともに、都内の難関私立大学、医療系大学、公務員試験への合格を実現できるよう努力していきたいと考えております。

学校は生き物であり、生徒も職員も毎年入れ替わります。人が変われば考え方、取り組み方を適切な内容に改善することは当然です。時代の変化を的確に読み取り、生徒、保護者、地域の願いを把握し、職員一人ひとりが強みを最大限に発揮できるよう恒常的な改善と進歩が、今まさに求められているところです。職員一丸となって努力してまいりますので、引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

関東支部東都岩高会総会

●日時　平成26年6月22日（日）
受付開始11時、11時30分開会

●場所　ライオン銀座7丁目店
6Fクラシックホール
（中央区銀座7-8-20　☎03-3573-5355）

全国にお住まいの同窓生の皆さま、この機会にちょっと覗いてみては如何でしょうか！関東支部一同お待ちして居ります。

平成26年度卒業の皆様と関東地区の学生皆様を、東都岩高会では上記総会へ参加費無料でご招待申し上げますので奮ってご参加下さい。申し込みに関しては岩高同窓会のＨＰをご覧下さい。

関東支部
東都岩高会会長　清水　光男　☎03-3921-7939

第44回 創立90周年記念 岩高同窓生作品展作品募集

岩高同窓生作品展を岩高祭（7月5日・6日）にあわせて母校にて開催します。また**チャリティーとして作品の収益を母校に寄贈する企画**も今年から設けました。つきましては、より多くの皆様の出展をよろしくお願い致します。

●開催期間　7月5日(土) 午前12時より午後4時
7月6日(日) 午前9時より午後3時
●会　場　岩村田高校本館2階
●募集作品　絵画・書道・写真・工芸・彫刻などの創作作品（出品は一人一点）
●応募締切　6月30日(月)
●搬入日　7月4日(金)午後1時から直接会場へ搬入・展示作業。

遠隔地等から送られる場合は、同窓会事務局宛で学校へお送り下さい。（詳細は本紙面4頁をご覧下さい）

定期総会のご案内

平成26年度の定期総会を下記のとおり開催します。
同窓生多数、特に若い皆さんのご参加をお待ちします。

●日　時　6月28日(土) 午後3時30分～
●場　所　岩高会館

懇親会－総会終了後、「こんどう」にて。(☎0267-68-7300)
会　費－5,000円

会報同封の振込用紙以外で会員の皆様に電話等によるご寄付のお願いをすることはありません。「振り込めサギ」に十分ご注意下さい。

寅太郎先生を偲びて

元同窓会長　油井孝一郎（旧中12回）

岩高創立90周年お目出とうございます。

初代校長、佐藤寅太郎長洲先生の偉大さ人柄については各界各層より著書、講演会等で述べられているので、私は、最後の教え子の逸話として申し上げます。

我々にとっては大変、好々爺でした。

先生は極めて質素で、平素は古びた和服と袴でした。したがって生徒も他の中等学校と異なり、黒一色の制服。教科書まで黒色の風呂敷包みでした。ただ、中学入学の時は編み上げ靴を履き、夏冬の服は専門家に注文して作ってもらいましたので、中学生として誇りを感じました。

先生は、「天下一品」ということが大好きで、毎朝の講和を要約すれば「質実剛健、信頼に足る人物になれ」という言葉は長洲精神の真髄でありました。「教職員が天下一品であるか、それを生徒は知らないが、先生が一品であるので君等も『天下一品』の生徒でなければならない」。これが口癖でありました。

たしかに先生方は心豊かで個性的な方々でした。全校生徒を皆覚えていてくれたことは、生徒として極めて嬉しい限りでした。

そんな先生方の一例をあげれば、謹厳実直な教頭の田中武紀先生がいた。あだ名を「まむし」と言い、生徒は誰もが恐れていた。しかし、この田中先生は円を描くのが得意で、まるで定規を用いたような見事な円を黒板に描いて生徒に向かって「にやり」、とする。これが独特でした。その田中教頭先生は、後に松本工業の校長に栄転されました。

長洲先生は、佐久間象山先生の大信奉者であり、自分でも小象山と言って、「お祭りには私がいなくては祭りにならない。これは君達には解らない」といつも言っていました。

又、竹が大好きでした。竹は中空「私心なし」。しかし、年毎にがっしりした節を持つ。これを先生は愛したのだろうと想像する。今も校地の一隅に修篁園として育てている。私たち生徒が試合前に校長室に挨拶に行くと必ず「余力を残して勝ってこい」と言われた。この言葉は、今も私には生きている。

先生の最大の行事、最高のリーダーシップは、何といっても御牧ヶ原の大運動会である。

当時、明治29年の日露戦争勝利と将来の日本発展を期待して、北佐久、小県の中等学校、小学校の大運動会が毎年実施されていました。この時の岩中の種目に、かの有名な東郷大将の「興国の興廃この一戦にあり　各員一層奮励努力せよ」云々の号令を手旗信号での実施がありました。これは、当日の名物、呼びものでした。このことを知った東郷大将もいたく感動され、以後、校長と将軍とは極めて昵懇となり、終戦まで代理子爵を送られたそうである。

次に叙勲であるが、戦前戦後、中学校長で勲三等をいただいたのは後にも先にも長洲先生ただ一人である。この時ばかりは首にかけて講堂で全員に披露、「この次の叙勲には肩からだぞ」と、ニコッとした笑顔が今でも忘れられない。そしてこの時は「毎日一緒にいれば老いぼれの隠居であるが、長い間の勲功が認められたので君等も校長の名を辱めないように」との訓示でした。老齢のため退職され、学校近くに住所を置き、朝晩学校を見守り、78歳の生涯を終わりました。

先生は文字通り岩高の生みの親であり、育ての親でありました。

縁

同窓会副会長　東都岩高会会長　清水光男（高8回）

「長野県岩村田高等学校」は今年、平成26年、学校創立90周年を迎えて、輝かしい雄姿を岩村田の地に伝えてくれています。

誠に喜ばしくもあり、誇りでもあり、愛しき我が母校！おめでとうございます。

私は佐藤長洲先生にお目にかかったことはありませんが、我が家の床の間には先生が揮毫された「清水君へ」と為書のある立派な掛軸が、私の生れる前からかかっています。

詳しいことは祖父からも父からも聞いた覚えはありませんでしたが、私が物心ついた時分に佐藤先生の所に行ってくると言うのを耳にした覚えはありました。

昭和28年4月に憧れの「岩高」に入学させて頂くことができ、心躍る日々でした。入学して初代校長先生が佐藤長洲先生であられたと聞き、初めて掛軸にあるお名前だと、その時知りました。先生と祖父の間柄が如何様であったかは、今は知る由も有りませんが、ご縁を頂いたことは確かなことです。

社会に出てから、岩村田中学校で3年間担任をしていただいた恩師小林甚四郎先生が、佐藤長洲先生のお孫様（和子様）の御主人と知り、ご縁の深さに驚いています。

学校創立90周年の中の僅か3年間と言う短い間であったが、一番多感な時期を「岩高」で培った「世のため、人のためになれ」との教えを胸に社会に出てからの自分の羅針盤とし、今に活きています。佐藤長洲先生、在学時の大草英雄校長先生他多くの教職員、同窓生、そして地元で岩高を愛する方々の熱意とご尽力により、90年の長きに亘り教育の場に在る母校は、素晴らしい学び舎で有ると共に自分の心の奥深く自慢できる場であり続けております。

同窓会長原拓男様、校長池田義則先生他多数の皆様の「ご縁」を頂きながら100年2000年と、その先まで「岩高」が続きますよう祈念して学校創立90周年のお祝いを申し上げます。

初代校長佐藤寅太郎先生
「質実剛健」
「信頼に足る人物たれ」

90周年を祝って

同窓会参与　渡辺かず子（高4回）

青葉、若葉の好季節を迎えました。本年は岩高創立90周年の記念すべき年であります。誠におめでとうございます。

私共がお世話になった時代は、戦後の散々たる時代でした。卒業してから半世紀以上を経て、世界状勢や社会構造は変ってしまいました。このような状態の中でも、わが岩村田高校は「でん」とした大木の如く深く根をはり、枝を延ばして大きく展びています。これは偏に、長洲先生のお教えである「質実剛健」「信頼に足る人物たれ」を代々の先生方の教育の積み重ねの賜物と思います。私共は終戦の翌年の昭和21年4月岩村田高等女学校に入学させていただきました。

初めて見る女学校、高い門、玄関、桜並木の中に立派な奉安殿、木の間がくれにみえる東側に洋館風の音楽室、きれいにみがき上げられた校舎に目をみはり、こんな環境の中で学べることはほんとうに幸せだと思いました。授業が始まり、いただいた教科書は新聞紙大の半紙に印刷されたものを切り裁ち綴じたものを各自で作り使用しました。

先生方も雑務のなか心をこめて指導してくれました。新任の東京から来られた音楽のK先生は、早速音楽部を作ってくださり朝夕の時間を使って音楽に打ち込んで下さいました。ピアノが2台しかないので朝早くか、夕方遅くなるまで順番待ちで練習したものでした。音楽会も岩村田劇場をお借りして行いました。上級生の演劇班は「つる」を演じてくれ忘れられない思い出です。

食糧増産のために畑づくりもしました。1年生が2人組になって肥料の桶をよろよろしながら、かついだ事も思い出します。又校外の穴虫農場で豆や麦を作りました。3年生になり学制改革で校名が城戸ヶ丘になり私共は併設中学3年となりました。翌24年いよいよ岩中・岩女は男女共学の岩村田高等学校となりその年は在校のまま城戸ヶ丘で過ごし、翌25年4月各自が椅子を持って男子部へ移動しました。合併したばかりは、なかなかなじめず、移動教室するには廊下の端の方を歩いたものでした。関西方面への修学旅行も初めてのこと、楽しい思いでいっぱいでした。長いようで短かった6年間多くの思い出を残し、進学、社会へと旅立って行きました。

最後にある老師からいただいた言葉を在校生諸君に送りたいと思います。

「為せば成る」「為さねば成らぬ何事も」「成らぬは人の為さぬなりけり」

努力して大空にはばたいてほしい。御健闘をお祈りしています。

岩女校訓

質実・勤勉・和順・貞節

後悔することのない高校生活を

元岩高80年誌刊行副委員長　小林寿三（旧中21回）

創立90周年の母校、岩村田高校に対して心からお祝い申し上げ、益々の発展を祈念しております。

さて、昭和20年（1945）8月、敗戦のラジオ放送を、私は海軍の飛行場建設が進行していた種馬所（現長野牧場）での勤労動員中の現場で聞きました。これより少し前には、岩村田駅近くにあった「昭和鉄」工場へも動員され製鉄の手伝いもしていました。これらは旧制岩村田中学校3学年のときのことで、この頃上級生は木曽での発電所工事や名古屋の航空機製造工場へ動員されていたはずです。私は父の仕事の関係で神戸市に住んでいましたが米軍の空襲による戦災に会い、両親の故郷である佐久へ引揚げたため、当時の岩村田中学校へは3学年の四月に転入しました。日中戦争が始まる昭和12年（1937）に小学校へ入学した私は、小学校から旧制中学校の半ばまで戦時中だったことになります。

その後、長い間母校とのご縁はありませんでしたが、定年で職を退いたあと、木内寛先生（旧中10回卒）のもとで旧佐久市の「佐久市誌（現代）」の編さんに係わりました。この頃、当時の棚澤仁同窓会長（岩高1回卒）からの依頼があり、「岩高80年誌」の編さんを木内先輩とともにお受けすることになりました。平成16年12月には岩高会館（同窓会館）の1階に編さん室が設けられました。

「記念誌は岩高が存続する限り継続刊行されるべきもの。岩高の一里塚である。その都度岩高史を紡ぐに足る資料を集積されていくべきもの」という先人のご意向に沿って編集をつづけ、多くの方々のご協力をいただいて16年3月には無事刊行することができました。これで母校に対し、わずかながら恩返しができたものと思っております。

この「岩高80年誌」の編さん中には、いただいた原稿や資料に何回も目を通しました。それで痛感したのは、個性を発揮できる学習やクラブ活動に恵まれている現代の高校生活です。食糧が乏しい中で勤労動員などによってほとんど学習できなかったわが身の旧中時代とは比べものになりません。

岩高会館の編さん室に通っていた頃、周囲でクラブ活動の練習に励む姿を見て頼もしく感じていました。どうか岩高生の皆さん、恵まれた機会を生かし、学習や諸活動に若い力を充分に発揮し、悔いが残らないような高校生活を送ってほしいと思っております。

岩高同窓会 創立90周年記念事業

教育環境の充実に重点

平成20年（10月）

●中庭整備

平成20年春季役員会事業部活動計画として創立90周年記念事業の前倒しとして学校施設の整備事業が始まる。

10月15日　中庭整備完成式典

春秋の庭・しだれ桃

平成21年（4月）

●キャンパス南側桜植樹

90年の歴史を見つめた桜と寄り添い

平成22年

●卒業記念「こもれびの庭」補助（3月）

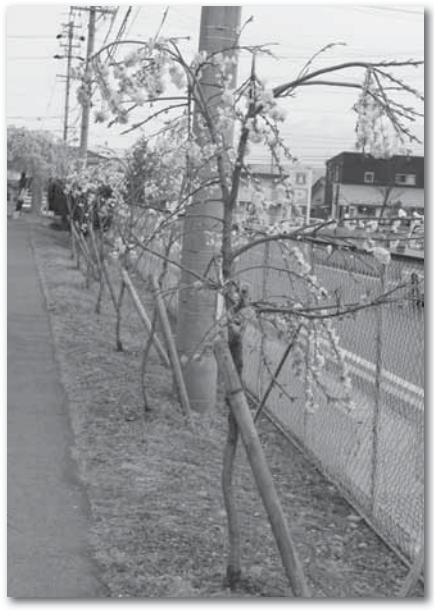
2010.3 卒業生卒業記念・白モクレンの下、苔が美しい静かな空間

冬の庭

夏の庭・岩高祭ステージイベント

●キャンパス西側に花桃等植樹（4月）

●生徒学習室エアコン2基設置（7月）



赤・白・ピンクに咲き誇る

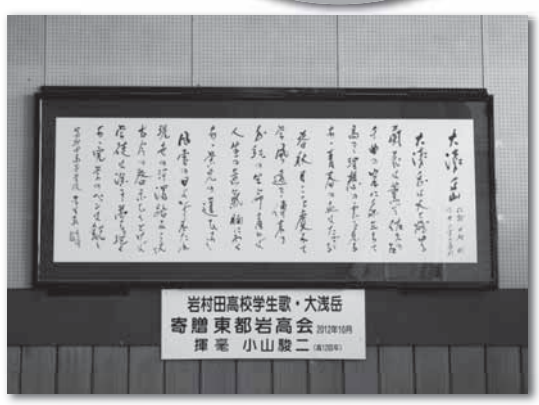
平成23年（7月）

●マイクロバス購入

PTAと共同購入・班活動に大活躍

平成25年

●大浅岳額装（東都岩高会）（2月）



東都清水会長より贈呈式

●電子黒板1台導入（3月）

県内初導入、魅力ある授業に

●校歌額装（2月）

平成26年（3月）

●新校へマイクロバス補助

2015年４月からは佐久平総合技術高校へ寄贈

平成24～25年

●展示用パネル40枚

同窓生作品展（生徒作品）

平成26年（9月）

東京芸術大学教授・美術学部長
保科豊巳氏（高23回）**制作**
岩高西門にモニュメント設置

創立90周年記念式典

お席の準備等の都合がございますので出席される方は事前に事務局までご連絡ください。

●**平成26年10月25日（土）**
午前９時30分～（会場：岩高体育館）

●**記念講演** 午前10時40分～11時40分
東京芸術大学教授・美術学部長
保科　豊巳氏（高23回）

卒業生シリーズ⑫

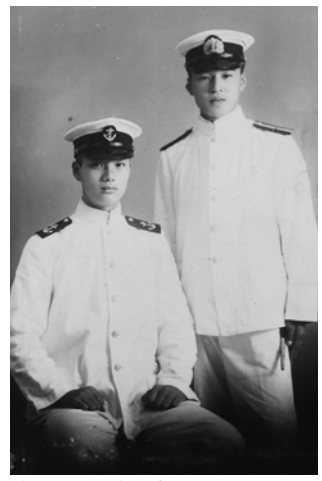
今昔を語る

前田禎造（旧中12回）

人間魚雷「回天」の特攻隊員

広島・長崎への原爆投下を経て大東亜戦争も終わった。私達大正生まれの者は、昭和の激動下勤労・耐乏の青春であり、まして自由など許されなかった。半世紀を経た今日も、私の強く印象に残るものは、救国のささやかな支えとして特攻へ身を投じ、終戦となり命拾いをしたことである。

昭和18年の学徒動員令により海軍予備学生として海軍対潜学校へ、その翌年戦局次第に苛烈を極め、敗勢となるや、これを挽回せんと特攻作戦が展開された。



海軍対潜学校当時、旧中13回の関口準司氏（左側）と昭和19年８月、神奈川県鎌倉市

卒業を前にしての８月、特攻要員の募集が行われた。学生４５０名全員が応募、主として長男を除く40名が選抜された。私もその一人であった。

その兵器は、青年将校仁科関夫中尉（佐久市出身）の創案・開発による、長さ15ｍ・直径１ｍ・炸薬１・６トン・速力30ノットで人間が操縦し、敵艦に体当たりをする一人乗りの必死必殺の「回天」と名付けられた人間魚雷であった。全国から甲種飛行予科練習生等、殉国の念に燃えた憂国の士が続々と徳山湾の出撃基地に集まった。奇遇にも町内栄町の小泉勉君も19歳の紅顔の搭乗員であった。訓練は走航潜入・浮上・特眼鏡による観測・そして航行目標艦に突入その艦底の通過を繰り返し、約10回搭乗して出撃となった。「七生報国」の鉢巻、「後を頼む」「成功を祈る俺も直ぐ征くぞ」と誓い合い、潜水艦上で手を振り、従容と征った戦友、潜水艦が見えなくなるまで涙して帽を振り、俺も征くぞと意を強くした当時。

今でも脳裡にしみ込み、離れることはない。仁科中尉（戦死後少佐）も「菊水隊」で初出撃散華された。この回天作戦で殉職者を含め搭乗員１０６名、未帰還潜水艇８隻、兵員８５５名の尊い命が失われた。

終戦後の８月19日、アメリカの参謀長サザラント中将が今「回天」搭載の潜水艦が何隻洋上にいるか、直ちに作戦停止の命令を出しなさいと叫んだ程「回天」は恐れられた兵器のようであった。現在は平和な豊かな繁栄の日本ではあるが、このように祖国の安泰を願い亡くなられた神風特攻・回天特攻等、多くの同胞の犠牲の上に現在の繁栄があるわけです。

私は体験を通して、戦争の悲惨さと、平和の大切さを次の世代に語り継ぎ、再び戦争の苦しみを子孫に味わせてはならないことを強く感じる。

岩中の陸上部、右端が私
学生服姿は油井孝一郎氏

スポーツ選手じゃなく たって世界と戦える

第42回技能五輪国際大会左官職種 日本代表

中澤左官　中澤　大貴（高61回）

私が岩村田高校を卒業し５年の歳月が経ちました。野球班に所属し野球漬けの日々を送っていたのが一番の思い出です。そんな中で日の丸を背負える未来が待っているとは思っていませんでした。

高校卒業後は父親の元で左官業に就きました。幼い頃から見てきた建築現場での職人の姿に憧れ、それに素直に従った形です。クラスのほとんどが進学していきましたが、私にその選択はありませんでした。

見ることと実際行うことが大違いなのはどこの世界も同じですが、職人の世界はプロの世界、ミスは許されない世界です。感覚や感性で仕事をする左官の技術を一朝一夕で習得することは不可能です。何もできない何も知らない私はできることから毎日必死で取り組みました。

そして仕事に慣れはじめ２年が経った頃、技能五輪という大会を知り、すぐに出場を決めました。毎年開催するこの技能五輪は23歳以下の若手職人の集まる大会で約40ほどの職種があります。今年で52回目を迎えて、まだまだ知名度は低いですが歴史があります。そして２年に１度国際大会も行われます。私は49回大会に初めて出場しました。

若手の大会とは言え要求される技術はハイレベルです。ほとんどの選手はこのためだけに数ヶ月練習をしてきます。私も夢中になって負けないよう練習をしました。良い環境で練習できたおかげで、金メダルを頂くことができました。そして翌年、今度は国際大会の出場のかかった50回大会に出場し、この大会でも金メダルを獲得して２連覇達成、国際大会出場権を得ました。この時点で信じられないような状況でしたが、努力は実るということを実感できた時でもありました。

半年間の個別特訓を経て挑んだドイツでの国際大会では６位敢闘賞で終わってしまいましたが、歴代の先輩方と同じステージに立てたのは光栄でしたし最高の経験となりました。

もちろん、これまでの間、多くの人の協力があり、それなしにここまでは絶対にこれなかったと思います。しかしやるのは自分自身であり、岐点に立った時挑戦的な選択がなければチャンスはなく協力を得られなかったと思います。挑戦しシンプルに努力を続けた結果、高校野球で一度も公式戦に出れなかった私が、世界のステージに立つことができました。余計なことを考えず努力をすることは難しいことですが、最高の左官職人になることを信じて、私はこれからも精進していきます。

朝のひと時

教頭　松原　均

岩村田高校へ赴任して１年が過ぎました。佐久に住んでみて感じたこと―浅間山が美しい。晴れの日が多い。空の青がとてもきれい。空気が澄んでいる―毎朝浅間山の美しさに元気をもらっています。浅間山の雄大さと空の美しさはとても素晴らしい。この景色を見ながら始業前に学校周辺のゴミ拾いをしています。正門から東へ向かい、グランドに添って歩道のゴミを拾います。岩高の周りは通行人が多いのでしょう。コンビニで買った商品の包み紙等が目立ちます。地域の皆さんからも声をかけていただきます。プールの外壁に添って塀越しに第二体育館、第一体育館、北門へと向かい弓道場を見ながら西門へと向かい校長先生と合流します。

西門で生徒の皆さんを「おはよう」とともに迎えています。声をかけると生徒は必ず「おはようございます」と返してくれます。一人一人の目をみて声をかけたいのですが、一度に多くの皆さんが門を通るのでなかなか思うようにはいきません。自転車通学者はほんの一瞬で通り過ぎて行ってしまいます。（生徒の皆さんごめんなさい。）朝だけではなく校舎内でも出会うと気軽に声をかけてくれます。挨拶が当たり前のように交わされるこの光景は岩高の素晴らしさを感じる１コマです。生徒間でも挨拶する姿をよく見かけます。とても微笑ましい光景です。このような光景が学園生活に潤いを与えてくれるものであると思います。挨拶運動の生徒会役員、忘れ物を届けに来るお母さん、西門前の道路を通る住民の方も挨拶をしてくれます。

先日ゴミ拾いをしていると車の中から保護者と思われる方から、声をかけていただきました。「いつもありがとうございます。先生の姿を見ていていつかお礼を言いたかったので。」とてもうれしい気持ちになりました。何気ない一言がうれしい気持ちにしてくれるものだと思いました。自分が毎朝声をかけることで生徒に明るさを提供できればと願っています。「おはよう」は褒め言葉であるといいます。【お早くから精が出ますね。お会いしましたね。起きられましたね。などの意味で褒め言葉】この褒め言葉で一日が始まることは今日が素晴らしい日であってほしいという願いが込められているのでしょう。素晴らしい一日、素晴らしい学校生活であることを願ってスタートできることはうれしいことであると思います。この光景が岩高が岩高である所以の一つなのでしょう。そのようなことを考えながら、今日も西門へと向かいたいと思います。

同窓会ニュース

岩高同窓生「慶事・表彰」一覧

ご慶事誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

（事務局にお知らせのあった方）

瑞宝小綬章受章（25年７月）
（元岩村田高等学校校長）
内山宏志氏（中15回）

瑞宝双光章受章（25年４月）
大森武氏（中17回）

瑞宝双光章受章（25年11月）
美齋津洋夫氏（高14回）

第44回 同窓生作品展出品要項

６月30日（月）までに岩村田高校同窓会事務局へFAXでお送りください。（FAX番号：0267-66-1450）

第44回同窓生作品展記載事項

岩村田高校同窓会事務局御中

１、氏名・卒業年と卒業回
　（例）岩高　太郎（昭和48年卒、高25回）
２、住所・電話番号
３、作品種類（絵画・書道・写真・工芸・彫刻他）
４、作品名
５、サイズ　縦　　cm，横　　cm
６、チャリティー作品として母校に　・寄贈する　・寄贈しない
７、懇親会参加の有無

◎額装には必ず吊り用金具と紐を付けてください。
◎裏面に題名・卒業年・住所・氏名を記入した用紙を貼付してください。

〈今後の日程〉

１、作品搬入日時と場所：７月４日（金）
　午後１時～　岩村田高校２階３Ｃ・３Ｄ教室
２、作品搬出・片付け‥７月６日（日）午後４時30分より
３、懇親会‥片付け終了後　午後６時より
「こんどう岩村田店」　☎0267－68－7300　岩高北

心はいつも佐久が故郷 祖母が故郷

神津善行（高2回）

私は昭和19年（１９４４年）11月から翌年の終戦後の９月まで、東京の麻布中学校（現・麻布学園中等部）から当時の岩村田中学校に疎開転校させて頂いた。

私の父は志賀村に住む一族であるが、親類に迷惑をかけたくないと言って、南佐久の内山村に家を借りて家族はそこで疎開生活を送った。

志賀から通学するのと内山から通学するのでは距離的にも大分差があるが、軍国少年であった私は距離などは問題とせず、毎日、必死で自転車のペダルを踏んで学校に通った。と言っても志賀村に抜ける峠は結構急坂で、雨や雪などが降った日には使えない為に遠回りをして中込経由で通ったものである。

戦争が次第に激しくなった１９４５年の３月10日に、全校生徒による夜間行進が行われた。３月10日は当時は陸軍記念日とされていた為に、そのような行事が行われていたのだろう。

行進は夜の８時ごろ学校を出発し、翌日朝方の７時～８時頃まで続いたと思われる。何故「思われる」と書いたかというと、その晩は大雪が降り、都会育ちの小生にとっては寒さが相当の負担であったのか、後半の２時間ぐらいの間の記憶が確かではないからである。小生は東京の小学校時代に、少年軍楽隊でトランペットを吹いていた。その経験をかわれて行進の先頭で軍隊ラッパを吹く役を与えられた。

ラッパ手は２名で、同級生であった望月亨君と並んで歩いたが、深夜になるとマウスピース（吹き口）に唇をつけると皮がマウスピースに凍りつき、無理に外すと皮が剥がれるという状況であった。

■神津善行の音楽講座と音楽会

この日に助け合いながら歩いた望月君との友情は現在も続き、佐久で開いている「神津善行の音楽講座と音楽会」の事務局長を長年務めてくれている親友である。

小生の父親は長男であったが、当時、近衛篤麿氏が上海に設立した東亜同文書院大学への入学を志し、近衛文麿氏に長文の請願書を送って熱意を認められて明治32年上京し、上海に渡って東亜同文書院一期生となっている。（この請願書は〈近衛日記〉に残されている）。

この父が上京の際に、志賀村から岩村田駅に向かう鼻顔神社の坂の上まで母親が送ってきたという。

駅まで行くという母親を説得し、一人で稲荷坂駆け下りて川を渡り、坂を振り返ったところ、坂下から見える小高い道の上で母親が正座をして手を合わせて祈っている姿が見えたという。父は即座に荷物を置いて道に正座し、しばし涙の中で母親に感謝をしたと私に話をしてくれた。

この話は小生の故郷に対する想いを変えた。それは、一度も会うことのなかった祖母に対しての敬愛の念か、この祖母の血を受けたことの喜びかわからないが、この祖母の愛した志賀村を、岩村田を、北佐久郡への愛を繋いでいってあげようという気持ちになったのである。

■愛の贈り物「佐久音楽祭開催」

１９８８年（昭和63年）８月。佐久青年会議所に呼び掛けて佐久音楽祭を始めた。野外ステージに山田一雄指揮による東京交響楽団を担ぎ出し、当時日の出の勢いであった日野皓正、菅原洋一、島田裕子、そして野外は絶対やらないという美空ひばりを口説いて回った。

これは「故郷の為」という言葉に隠れているが、志賀村から一歩も外に出ることなく、わが父を愛し育てた祖母に対する私からの愛の贈り物なのである。

故郷を愛するというのは、その土地に住んでその土地を育んで来た人々の心を愛するということであると私は思う。

だから私は、故郷を離れていても、心はいつも佐久が故郷であり、祖母が私の故郷であると思っている。

私が祖母に送り続けている様々な音楽は、佐久の人々に心の優しさを伝えていってくれると思っているし、祖母のような優しさを持った人が佐久にたくさん育って来てくれると思っている。

岩中・岩女・岩高（高３）同年会終る！

木内（幸）、依田（文）、須江（弘）記

私達は、昭和20年４月大東亜戦争末期、小学６年生から旧制岩村田中学に入学した。当時は戦時中のため中学には将校が配属され、毎日のように銃剣術や切り込みの訓練が行われた。また、農家への勤労奉仕や種馬所の飛行場建設に動員され、勉強どころではなかった。そんな苦しく大変な時代の同年生故か強い絆で結ばれていたと思う。終戦直後６・３・３・４の学制改革が行われ、岩中、岩女が統合して現在の岩村田高校となった。

卒業後40年以上にわたって同年会が行われ、懐かしく楽しいひと時と共に親交を深めてきたが、80歳の大台に乗ったので残念ではあるが、会のわずかな残金（２万５千円）を岩高同窓会に贈ってこの同年会を閉じることになった次第です。

岩高の更なる発展を祈念して！

一二美会便り

関口 悦子（岩女34回）

平成25年５月27日（水）28日（木）岩村田佐久ホテルにおいて、一二美会が行われました。21人にお誘いの案内を出しましたところ16人出席してくださいました。

出席率の良さに驚いたり喜んだり。当日は思い思いに心の内を話し合いました。同級生何でも話せる気兼ねのない間柄、心ゆくまでおしゃべりを楽しみ、校歌を歌ってお開きとなりました。ホテル側も高齢者ということで食事、部屋等を気遣って下さり良い同級会が出来ました。関係皆様に感謝致します。

翌28日はホテルの小型車で午前中、上平尾―パラダ―種畜牧場の山羊たち―広々した牧草園―市役所―長寿地蔵尊―旧中込学校―佐久平駅周辺見学。佐久平の変わりように驚きの声が上がっていました。『草笛』でおそばを頂きお別れしました。「来年も会えたらいいね」と言いながら―。

お天気にも恵まれた２日間でした。

当番　岩村田地区

一二美会附録

一二美会のリーダー的役割を担って下さるのが佐藤いくさんです。佐藤さんによりますと、昭和19年卒業の一二美会（同級会）は昭和20年第１回を母校で（25人出席）22年岩子鉱泉で第２回（30人）を、途中結婚子育て等で中断しましたが昭和39年母校で第３回再開（12人）。上田、東京、宇都宮、三島等会員の住んでいる土地でも開催して下さり、今年で52回を数えました。分厚いアルバムが証人です。

（いくさん所蔵）

クラス会では何時も校歌を歌い岩崎長思先生始め諸先生を偲びます。

まとまりの良い一二美会は長寿を誇る会でもあります。

事務局からの風景

▽海外派遣の奨学生や英検の募集を懸けるとすぐさま反応し応募してくるのは女子生徒達である。女子生徒の元気さ、やる気に対して男子生徒達の消極性が研究室で話題になる。▽成長期の脳の構造には男女差があるという。右脳と左脳を繋ぐ脳梁（のうりょう）の太さが男子は未発達ゆえに左右の脳の働きがどちらか一方に偏りがちになるという説である。成長期の性差の特徴（あくまで概論であり、育て方、教育などの環境による影響がより大であるが）として男子のそれはsingle-mindedと表現される。良く言えば「一途（いちず）」、悪く言えば「気の向かないことには無関心」。尤も20代半ばにはその差異はほとんど無くなると云われている。▽ステーヴ・ジョブズ（アップル社創業者）、ビル・ゲイツ（マイクロソフト社創業者）、ジョン・レノン（ザ・ビートルズのリーダー）は大学中退である。やりたいこと、やれることが目の前にあるがゆえに大学教育の意味が色褪せて見えたのだろう。好きなことをやりながらでもよいのでとりあえず卒業、と考えるのは大人のバランス感覚であり、親の願いでもある。彼らもそのような周囲の反対の中で決断したのであろう。ステーヴ・ジョブズの有名な言葉"Stay hungry. Stay foolish"「常に現状に満足せず、たとえ周囲から愚かだと思われても自らの信ずる道を進め」。独創性とは誰も思いつかないことに着眼し、しかも誰しもが「なるほど」と納得する「コロンブスの卵」的発想力だ。わが道を進む際、孤独に耐えながら自分を信じて突き進める胆力も必要だ。こんな若者は大人社会から見れば独りよがりの問題児であり、親はその行く末を按じ続けたに違いない。「好きなことばかりに没頭し世間で協調性をもって自立してゆけるのか」▽物事に魅了され周囲のことが目に入らない少年期は同時にこの世界という舞台で自分の演ずべき役柄を掴みつつある時期でもある。問題は自分の夢をどう社会化（社会を構成する要素と結びつけること）してゆくか、である。大学は中退したけれども３人が卒業した高校は基本教科を徹底して教え込む地域の進学校であったことも共通項だ。高校で学ぶ基礎科目は時空を超えた森羅万象学である。人類が積み重ねてきた思想、知恵に触れることは世界の中で小さな点のような自己存在が、有史以来の無数の群像や事象との繋がりをもつ契機でもある。その時までは授業の内容は点と点でしかなく、すっきりしない梅雨空の下、俯き加減に彷徨う日々が続く。一方、女子生徒達は安定した成長を続けてゆく。私の受け持ったクラスでは国・公立６名の現役合格者のうち４名が女子達であった。ところが高校２年生の後半から３年生にかけて飛躍的伸長を見せたのが２名の男子達だ。それまで生彩に欠けていた分余計そう見えたのかもしれないが、何か悟りを拓いたごとく猛然と走り始める。点と点が繋がり、線となり、その線がさらに他の点と繋がり、枝分かれしてネットワークが形成されたのであろう。▽「コミュニケーション能力」、「グローバルな視野」、「日本文化の発信能力」などと時代の風は若者達に彼らの想いや事情とは無関係に吹きつけてくる。四季折々の風を感じつつ季節の薫りを楽しむがごとく時の風の中を進んで行けばよい。時流に流されることなく、ましてや翻弄されることなく、まずは教科の学習に打ち込み、本を傍らに、孤独を恐れず自己との対話に費やす一時期が、10代後半の青春にあってもよい。クラス、学年、教師から成る「９００名の岩高ワールド」の中には志を同じくする人々との出会いが必ずある。ジョン・レノンはポール・マッカートニーと、ビル・ゲイツはポール・アレンという最高のパートナーに高校時代に出会ったのである。

（柳澤眞）

これからの岩高

生徒会長
高橋　遼

今年度の生徒会スローガンは「君たちが主役　創り上げる生徒会」です。これは生徒会が主役を創り上げるという二つの意味と、生徒が自ら主役になるという意味があります。

ところで今年度で岩高の工業科は閉科となります。ぜひ普職併設の最後にふさわしい取組みとなるよう、全校生徒一人一人が主役となって活動して欲しいと思います。

今までの岩高の伝統を一つ失うさみしさがありますが、これからの更なる発展に繋がるよう精いっぱい頑張っていきたいと思います。

今私たちにできること

生徒会副会長
櫻井　曜

本校生徒会ではボランティア活動も大いに取り組んでいます。

校内や街頭、文化祭を通じて募金活動を行い、その集まったお金と文化祭の売上金の一部を日本赤十字社を通じ被災地に送りました。またペットボトルのキャップを集めて、アフリカの人たちへワクチンに変えて送っています。このことは報道にも取り上げられました。

この活動は今後も粘り強く継続していきます。

更に地域社会にも目を向け、ゴミ拾い活動等を行い、岩村田高校と地域との交流を深めていきたいです。

岩高生としての自覚を持ち、全校生徒の代表という自覚を持って名に恥じない活動をしていきたいです。

挨拶をするということ

生徒会副会長
小林　千紗

突然ですが皆さんは、恐竜に追いかけられている時に、知り合いに出会ったらどうしますか？挨拶をしようと思いますか？

私はそんな切羽詰まった状況で、人に話しかけることは出来ないと思います。逆に言うと、人に挨拶ができる、ということはとても落ち着いている、ということなのではないでしょうか。私は、岩村田高校は挨拶ができるからこそ、落ち着いた雰囲気で学校生活が送れているのではないかと感じます。朝の挨拶はもちろんですが、何気ない授業の開始と終了の挨拶なども、大切にすることでよりよい岩村田高校になっていくと思います。

今年度も本校に挨拶の輪を広げていきたいと思います。

第51回 岩高祭

7月5日(土)
6日(日)

全校参加の岩高祭

岩高祭実行委員長
柳澤　純加

今年度は岩村田高校創立90周年であり、また普通科と工業科の併設最終年度です。

普通科と工業科が一緒に創り上げる岩高祭は今年度が最後となるため、記憶に残るような企画と運営をしたいと思います。

平成26年度第51回岩高祭のテーマは『Dynamite～』です。

全校生徒ひとりひとりが主体となる岩高祭を創り上げます。

第５回 佐藤寅太郎賞

同窓会会則４条16「文武両道を実践し、模範となった生徒に対して卒業時に初代校長を記念し、佐藤寅太郎賞を授与する。」

田口央基（たぐちひろき）君…２年次より書記として生徒会執行部に参加、２年時８月「ハイスクールサミット in 東北」に長野県代表２名のうち１名として参加、全国から結集した高校生達と交流、見聞を深めた。９月生徒会長に当選。自分の言葉で当意即妙に語る折々の会長挨拶は全校生徒の印象に残り、心に響くものであった。サミットでの経験を基に東日本大震災への募金活動を生徒会活動の柱とし指揮した。班活動では美術班に所属し12月の佐久地区合同美術展では１年次、２年次連続で県大会推挙作品に選出され、３年次５月には佐久美術展にて新人賞を獲得した。また班長として班内をまとめ、後輩の指導育成に尽力した。

学業も１年時より成績上位を維持し、校外模試においても卓越した実力を示した。また３年間無遅刻、無欠席の皆勤賞も授与された。前期日程試験にて北海道大学文学部人文科学学科に見事合格を果たした。

高21回Ｃ組同級会を終えて

幹事　戸塚・久留間

昭和44年３月卒業Ｃ組の同級会をしました。その様子をお知らせします。担任の竹内先生は既に亡くなられ、級友４人が他界しています。

25年11月９日(土)国民宿舎もちづき荘で開催しました。男性10人、女性３人が参加しました。約２年半前に伊香保で開催して以来です。年を経た特有の体形になっている男性が少なくて、シルバーグレイの素敵な紳士が多く、女性も元気でした。子や孫の話題より親の介護、余暇をどのように生かしているかの話題が多かったです。現役でバリバリ働いている人もいました。地元の親の様子を週末に見に来て、週の始めは都会で仕事をしているという男性が数人いました。

高校卒業後40年以上経って初めて会う人もいました。氏名を言われて高校時代の面影を見つけて「あ、あ！」と思い出す人もいました。女性は勿論男性も全員タバコをやめていて（高校時代から飲んでいたので堪能した？）、アルコールもほどほどで乱れることもなく懐かしくて楽しい同級会でした。ある人の好意で漬物のおみやげ付きでした。次回は２～３年後に東京で開催らしいです。関東在住の方の出番です。

みすゞ文芸

俳壇

神津　武士（旧中16回）

・おしなべて春は黄色ではじまりぬ
・すべり込む砂塵まみれの日焼顔
・除夜の鐘つけばぐらりと時うごく

清水　光明（高４回）

・クレソンの紫の葉や川涸るる
・風花や長き睫の栗毛駒
・遥かなる岳のかがやき桃の花

市村　雅（高５回）

・早起きの雀に春眠破らるる
・厳寒も住めば都や鯉の里
・青空に華（はな）やぐ気球風光る

柳壇

山﨑　英夫（旧中21回）

・民草の上舞う金でビルが建つ
・景気より赤字始末に子が泣くよ
・お上（かみ）では地道生活知る気ない

柳澤　秀一（高９回）

・まだまだと趣味を元気のもとにする
・頑張るもくやし涙のコンマの差
・この日本どこへ連れてく秘密法

平成25年度岩村田高等学校同窓会一般会計決算書

収入総額　6,709,829円　　支出総額　5,825,549円　　差引残額　884,280円

自 平成25年４月１日～至 平成26年３月31日　　岩村田高等学校同窓会長　原　拓男

【収入】

項目	予算額	決算額	増減	摘要
前年度繰越	227,355	227,355	0	H24年度よりの繰越金
入会金	2,800,000	2,790,000	10,000	10,000円×279名分（H25年度入学生）
卒業時入会金	1,104,000	1,100,000	4,000	4,000円×275名分（H23年度入学生）
役員会・総会	400,000	311,000	89,000	
同窓会活動協力金	1,000,000	2,279,310	△ 1,279,310	506名様からご協力(振込手数料を引いた額)
預金利息	145	164	△ 19	普通預金利息　寄付（内山宏志）1,000,000円　寄付（美齋津洋夫）100,000円
雑収入	0	2,000	△ 2,000	寄付
計	5,531,500	6,709,829	△ 1,178,329	

【支出】

項目	予算額	決算額	増減	摘要
事業費	1,000,000	1,111,755	△ 111,755	第43回同窓生作品展、卒業生用証書ホルダー他
広報費	2,200,000	2,157,224	42,776	同窓会報印刷代、同窓会報発送代
総会費	240,000	195,950	44,050	講師謝礼、総会会議費他
役員会費	800,000	499,667	300,333	役員会等補助
支部補助費	100,000	100,000	0	東都岩高会
旅費	40,000	47,440	△ 7,440	東都岩高会出張旅費
通信費	50,000	50,000	0	諸通知葉書代
事務費	10,000	42,327	△ 32,327	印刷用トナー代・事務用品
慶弔費	100,000	69,600	30,400	香典・生花・祝儀
渉外費	150,000	142,229	7,771	寸志・餞別
積立金	500,000	700,000	△ 200,000	積立金会計へ
クラブ振興費	100,000	100,000	0	クラブ振興後援会へ
教育研修費	50,000	40,000	10,000	教育研修補助金
雑費	5,000	7,414	△ 2,414	卒業生表彰生徒用額
予備費	186,500	561,943	△ 375,443	新校準備金マイクロバス・技能五輪出場同窓生御祝
計	5,531,500	5,825,549	△ 294,049	

平成26年度岩村田高等学校同窓会一般会計予算書（案）

収入総額　6,102,430円　　支出総額　6,102,430円　　差引残額　0円

自 平成26年４月１日～至 平成27年３月31日　　岩村田高等学校同窓会長　原　拓男

【収入】

項目	予算額	前年度予算額	前年度対比	摘要
前年度繰越	884,280	227,355	△ 656,925	H25年度よりの繰越金
H26年度入会金	2,690,000	2,800,000	110,000	10,000円×269名分（H28年度卒業時に、残金4,000円を集金予定）
H24年度入会金	1,128,000	1,104,000	△ 24,000	4,000円×282名分（H24年度入学生、卒業時残金4,000円を集金）
役員会・総会	400,000	400,000	0	
同窓会活動協力金	1,000,000	1,000,000	0	1,000円×1,000口として、振込手数料を引いた額
預金利息	150	145	△ 5	普通預金利息
雑収入	0	0	0	
計	6,102,430	5,531,500	△ 570,930	

【支出】

項目	予算額	前年度予算額	前年度対比	摘要
事業費	1,100,000	1,000,000	100,000	同窓生作品展、クラブ奨励金、卒業証書ホルダー他
広報費	2,200,000	2,200,000	0	会報印刷代、発送代他
総会費	300,000	240,000	60,000	講師謝礼他
役員会費	800,000	800,000	0	役員会補助
支部補助費	100,000	100,000	0	東都岩高会
旅費	50,000	40,000	10,000	支部へ出張等
通信費	50,000	50,000	0	諸通知葉書代、電報、切手代
事務費	30,000	10,000	20,000	事務用品購入代
慶弔費	100,000	100,000	0	香典、弔電、生花、祝儀他
渉外費	150,000	150,000	0	寸志、餞別他
積立金	500,000	500,000	0	積立会計へ
クラブ振興費	100,000	100,000	0	クラブ活動後援会へ
教育研修費	50,000	50,000	0	教育研修補助金
雑費	5,000	5,000	0	事務手数料
予備費	567,430	186,500	380,930	
計	6,102,430	5,531,500	570,930	

※尚、予算に過不足が生じた場合、正副会長相談の上、一任させていただきます。

運動班の成績

（総合体育大会及び新人体育大会の最上位成績）

本校の掲げる「文武両道」のもと各運動班が、朝・夕・休日と日々努力した練習の成果をご覧ください。今後とも応援宜しくお願い申し上げます。

運動部長　**高橋　善博**

総合体育大会			新人大会	
サッカー	東信大会	1回戦	東信大会	2回戦
	県大会	1回戦	県大会	2回戦
バスケット	県大会	2回戦	県大会	2回戦
バレー	県大会	1回戦	県大会	1回戦
	県大会	1回戦	東信大会	1回戦
柔道	県大会	団体　2回戦	県大会	団体　2部3位
		個人　60kg・100kg 1回戦		個人　73kg　1回戦
		個人　66kg・73kg 2回戦		個人　60kg　1回戦
	東信大会	個人　3回戦	東信大会	個人　ベスト16
剣道	県大会	団体　予選リーグ	県大会	団体　ベスト16
		個人　1回戦		個人　ベスト16
	県大会	団体　予選リーグ	県大会	団体　ベスト8
		個人　形1回戦・組手2回戦	東信大会	個人　形1回戦
空手道	県大会	団体　予選	県大会	団体　予選
		個人　予選		個人　予選
弓道	県大会	団体　予選	県大会	団体　予選
		個人　予選		個人　予選
	東信大会	団体　予選	東信大会	団体　予選
		個人　予選		個人　予選
ソフトテニス	県大会	団体　ベスト8	県大会	団体　ベスト16
		個人　1回戦		個人　ベスト8
	北信越大会	団体　1回戦	県大会	団体　ベスト8
		個人　2回戦		個人　ベスト16
テニス	県大会	シングルス　1回戦・ダブルス　1回戦	県大会	団体　1回戦
		シングルス　2回戦・ダブルス　2回戦		シングルス3回戦・ダブルス3回戦
	東信大会	団体　6位	東信大会	団体　1回戦
		シングルス　2回戦・ダブルス　2回戦		シングルス　1回戦・ダブルス　3回戦
バドミントン	県大会	団体　1回戦・シングルスベスト16・ダブルス2回戦	県大会	団体　1回戦
		シングルス　1回戦		シングルス3回戦・ダブルス3回戦
	東信大会	団体　1回戦	東信大会	団体　4位
		ダブルス　2回戦・シングルス　3回戦		シングルス　ベスト8
卓球	県大会	団体　4位	県大会	団体　ベスト16
		ダブルス　ベスト8・シングルス　2回戦		シングルス　予選リーグ3位
	県大会	団体　8位	県大会	団体　ベスト8
		ダブルス　2回戦・シングルス　ベスト16		シングルス　2回戦
陸上	北信越大会	110mH予選・4×400mR予選	県大会	決勝　自由50m12位・100m9位・200m6位・100m5位
		8種競技7位・100m8位		決勝　自由200m13位・平泳100m22位・100m12位・400m18位
	県大会	200m・400m・800m・400mH　予選	県大会	予選　自由400m13位・平泳100m32位
		4×400mR・走高跳・走幅跳・三段跳　予選		予選　バタフライ100m22位
		砲丸投・円盤投・ハンマー投　予選		予選　自由400mR17位
		砲丸投・円盤投・槍投　予選		予選　400mメドレーR18位
	県大会	砲丸投・円盤投・槍投　予選	県大会	予選　自由200m16位・400m18位
				予選　平泳100m19位・200m12位
				予選　背泳100m18位
				予選　自由400mR12位
				予選　400mメドレーR10位
水泳	県大会	予選　自由50m12位・100m9位・200m17位	県大会	決勝　自由50m6位・100m5位
		予選　バタフライ100m22位		決勝　自由200m6位・100m5位
		予選　自由400mR17位		予選　平泳50m22位・100m21位
		予選　400mメドレーR18位		予選　自由200mR18位・400mR19位
		予選　自由200m16位・400m18位		決勝　自由200m21位
		予選　平泳100m19位・200m12位		決勝　自由200mR7位・400m5位
		予選　背泳100m18位		決勝　200mメドレーR6位
		予選　自由400mR12位		予選　自由50m38位・100m27位・平泳50m13位
		予選　400mメドレーR10位		予選　平泳100m16位・背泳50m11位
				予選　背泳100m14位・バタフライ50m19位
野球	選手権大会　2回戦・春季北信越東信大会代表決定戦・秋季北信越東信大会2回戦			

弓道班

壮行会

陸上班

卓球班

野球班

文化班活動状況

ここには載せきれませんが、今年度も文化班は多方面で活躍しました。今後とも同窓会の皆様のご支援をお願いいたします。

文化部顧問代表　**宮下　靖弘**

班・同好会名	大会名など	実績など
囲碁・将棋	第43回長野県高等学校将棋選手権大会　長野市	男子個人A級3位中島克典
	第6回長野県高等学校将棋大会　長野市	男子団体2位 男子個人戦2位　池田駿祐
	第25回長野県高等学校新人将棋大会　松本市	男子団体準優勝岩村田A 蒲地弘昇、鈴木輝、中島克典 男子個人A級2位池田駿祐
	第22回全国高等学校文化連盟将棋新人大会函館市	全国大会進出 予選1勝3敗予選敗退池田駿祐
総合工学	高校生ものづくりコンテスト旋盤作業	北信越大会4位
	ロボコン信州キャリーロボット部門	県大会出場
	ジャパンマイコンカーラリー	北信越大会出場
	エコ電レース全国大会	93台中4位入賞
	Econo Power in GIFU 全国大会岐阜県	54台中2位入賞
	エコカーチャンピオンシップ全国大会	24台中3位入賞
演劇	東信地区演劇合同発表会　上田市	参加
	佐久演劇祭　佐久市	参加
	東信地区演劇交流会　御代田	参加
英語	長野県イングリッシュキャンプ&プレゼンテーションコンテスト	参加
	長野県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト（7月、11月）	参加
美術	佐久地区高校合同美術展参加	班員7名が出品
	長野県高校美術展　飯田市	堀芙未湖、箕輪文佳選出、出展
	佐久平の美術展	平面部門新人賞堀芙未湖
	みなみからきた	班員6名が出展
吹奏楽	東信合同音楽会　小諸市	参加
	第35回定期演奏会　小諸市	旧顧問掛川、小山先生、OB湯本さん出演
	吹奏楽コンクール東北信大会　A編成の部　須坂市	銀賞
	岩村田高校芸術鑑賞　小諸市	出演
	第20回東信高等学校芸術交流音楽祭　東御市	参加
	東信リーダーズバンド選考会　小諸市	4名選出 土屋朋未、金澤瑠香 菊地咲瑛子、柳澤萌乃
	アンサンブルコンテスト東信大会　小諸市	木管3重奏、クラリネット4重奏、サックス4重奏、金管8重奏銀賞
	東信吹奏楽祭　上田市	上田高校吹奏楽班と合同バンドで参加
	長野県高等学校吹奏楽フェスティバル　松本市	上田高校吹奏楽班と合同バンドで参加
音楽同好会	第37回全国高等学校総合文化祭合唱部門　佐世保市	東信リーダーズコールの一員として参加浅沼奏考

吹奏楽班

演劇班

●事務局と同窓職員

事務局長	柳澤　眞平	高25回
事務局（渉外）	内堀　俊彦	高40回
〃（会計）	小岩井瑞恵	高31回
〃（庶務）	小松　緑之	高40回

同窓職員

行政嘱託員	櫻井昇一郎	高23回
美術	日向　勉	高25回
英語	柳澤　眞平	高25回
理科	北原　孝育	高26回
事務長	徳田　敏昭	高26回
保体	岩崎　隆芳	高28回
学校長	池田　義則	高29回
英語	小岩井瑞恵	高31回
保体	高橋　善博	高33回
数学	飯田　和紀	高37回
機械	岩田今朝宣	高38回
体育	内堀　俊彦	高40回
機械	小松　緑之	高40回
機械	佐藤　正昭	高40回
機械	上野　真一	高41回
電気	中澤　純三	高48回
機械	井出　史憲	高49回
機械	神津　武則	高51回
電気	藤城　亘陽	高57回

平成25年度進路状況について

進路指導主事　甲田　泰広

同窓生の皆様には、日頃の教育活動についてご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。皆様の援助により生徒のための多くの書籍や生徒が利用しやすいような進路室の環境整備を行うことができました。平成25年度の進路の状況についてご報告をします。

普通科は国公立大学合格者数がのべ21名、私立大学合格者数がのべ１５４名になっています。また長野県短期大学は6名の合格でした。国公立大学では北海道大学や首都大学東京などの難関大学をはじめ、経済系、医療系、語学系など幅広い分野への進学をすることができました。私立大学では中央大学・法政大学といったＭＡＲＣＨでのべ9名の合格に加え、日大・東洋・駒澤・専修大学で25名が合格しました。近年の本校の傾向として、難関大学や東京を中心とした都市部の有名私立大学への受験者が増加していることがあげられます。また今年度の特徴としては、医療系大学の合格率が非常に高かったことがあげられます。設置大学が少ない診療放射線をはじめ、理学療法・作業療法・臨床検査・看護などの様々分野に進学することができました。このようなことから、進路室ではより高い進路希望を実現できるように綿密な指導を心掛けてきたいと思います。工業科は信州大学の２名の合格をはじめ、20名以上が私立大学へ進学をしました。希望する学部は理工系が多く、事前指導を行った上で推薦を利用し合格しました。いずれの生徒も目的がしっかりとしており、進学後の活躍が期待できます。また25年度は新校向けて工業科独自の進路室を設置しました。これは工業科独自の進路の開拓と指導の確立をしようとするもので、徐々に準備は進んでいます。平成26年度は進路保障がしっかりとできる体制づくりをしたいと考えますので、ご支援をよろしくお願いします。

入試年度別合格状況

平成26年３月31日現在

入試年	26年			25年			24年		
	普	工	既卒	普	工	既卒	普	工	既卒
国公立大学	21	2	6	14		2	21	5	5
私立大学	153	21	20	166	28	8	186	30	18
国公立短大	9	0	0	18	1	0	1	0	1
私立短大	10	1	0	7	1	0	8	2	0
所管外大学校	1	1	0	2	7	0	1	4	0
専修学校	16	0	0	28	44	0	33	49	0

国公立大学

入試年	26年			25年			24年		
	普	工	既卒	普	工	既卒	普	工	既卒
北海道大	1								
北見工業大	1								
弘前大							1		
群馬大			3				1		1
埼玉大			1						1
宇都宮大	1								
千葉大				1					
東京海洋大								1	
東京学芸大				1					
新潟大				1					
富山大	2						1		
金沢大									2
山梨大	1						1		
信州大	1	2	2	4		1	8	4	
和歌山大	1								
高知大				1					
鹿屋体育大							1		
琉球大	1								
茨城県立保健医療大	1								
群馬県立女子大	1								
群馬県民健康科学大	1								
高崎経大	5			1			2		
千葉保健医療大				1					
首都大東京	1								1
横浜市立大	1								
神奈川保健福祉大				1					
新潟県立大				2					
富山県立大							1		
山梨県立大				1		1	2		
都留文化大							1		
長野県看護大							2		
福井県立大	1								
北九州市立大	1								

私立大学

入試年	26年			25年			24年		
	普	工	既卒	普	工	既卒	普	工	既卒
東北芸術工科大							1		
つくば国際大	1								
足利工業大		1							
国際医療福祉大	2		1	1			7		
文星芸大							1		
上武大	1	1		1				1	
秀明大				1					
東京福祉大	1			3			1		1
高崎健康福祉大	5			1			8		
群馬医療福祉大	1				1		3		
群馬パース大	3			3					
共愛学園前橋国際大	1								
跡見学園女子大				2					
埼玉工大	1	1		1	1			2	

入試年	26年			25年			24年		
	普	工	既卒	普	工	既卒	普	工	既卒
城西大				2			1		1
駿河台大	1								
東京国際大							2		
獨協大						1	1		1
日本工業大		1						2	
人間総合科学大	1								
ものつくり大		2							
文教大	6			4					2
文京学院大	1						2		
日本医療科学大	3		2		1				
川村学園女子大				2					
神田外語大	1						1		
国際武道大							2		
淑徳大				1					
聖徳大							1		
千葉工大		2		6	4			6	
中央学院大				1					
帝京平成大							2		
東京情報大							1		
麗澤大							2		
千葉科学大				2			1		
亜細亜大	2			1			1		
桜美林大	1						2		
大妻女子大	1			1					
共立女子大	3								
北里大	1			1			4		
杏林大	1			2					
国学院大						1			
国士舘大	1			6			4		
駒澤大	4			7		1	3		
駒沢女大				1			1		
実践女子大				2					
女子美大							1		
成蹊大	2								
専修大	7			5		1	13		
大正大	2				1				
大東文化大	4			5			6		
高千穂大				1			1		
拓殖大	1			3			4		
玉川大			2	1					
多摩美大	1								
中央大	1						1		4
帝京大	3	1		7			12		
東海大	1	1	1	11			2	2	1
東京医療保健大	1								
東京家政大	1			1					
東京家政学院大				1					
東京経大	1			2			6		
東京工科大		1		2	1		1	2	
東京造形大	1						2		
東京電機大	2	2	1	2	1		1		
東京農大			1				1		
東京理科大	1								
東洋大	8	1	1	3			9		2
日本大	6	1		7	1		11		
日本女子体育大							1		
日本体育大	1								
文化学園大	1								
法政大	7		1	3		1	4		
武蔵大			1				3		

入試年	26年			25年			24年		
	普	工	既卒	普	工	既卒	普	工	既卒
東京都市大				1					
武蔵野大				2			1		
武蔵野美大	1								
明治大				1					
明治学院大	1			1			2		
明星大	1			8			1		1
目白大	1			2	1		1	2	
立正大	2			2			2		
和光大				2					
東京医療保健大							1		
麻布大							1		
神奈川大	4			2	2		8	3	
神奈川工科大	1	1		3	1		1	1	
関東学院大				1			1		
湘南工科大								1	
鶴見大				1					
桐蔭横浜大				2					
東京工芸大				1			2		
新潟工科大	1								
新潟工業大	1								
新潟医療福祉大				4			4		
金沢医大									1
金沢工大	3			2	6		2	2	
金沢学院大				1					
福井工大	3								
山梨学院大	1	1			1		4		
健康科学大	1			3			4		
長野大	2	1		3	2		2	1	
松本大	1							1	
諏訪東京理科大		2			3		3	2	
清泉女学院大	1						1		
佐久大	2			6			2		
岐阜聖徳大							3		
静岡理工科大				1					
聖隷クリスト大							2		
愛知学院大							1		
愛知工業大								1	
愛知淑徳大							1		
修文大	1								
中京大						1	1		1
中部大	2								
中部学院大	1								
東海学園大								1	
名古屋学院大				1					
名古屋経済大	1								
日本福祉大		1		1					
鈴鹿医療科学大					1		2		
京都学園大	1								
京都産業大				1					
京都女子大				1					
京都橘大	1								
同志社大									1
花園大				1					
佛教大	2								
立命館大									2
龍谷大				2			2		
大阪経大				1					
関西外大				1					
吉備国際大							1		

平成25年度就職状況

就職係　上野　真一

経済に明るい兆しの見える中、高卒求人では未だその恩恵を受けるまでに至らない環境での活動となりました。

現在、求人企業数の回復に反し、求人数は減少しており引続き高校生に厳しい状況が続いております。

本校では幸いにも、この厳しい環境の中で、三十名を超える生徒が一次試験で内定をいただくことができました。

しかし、本校の不採用者数は以前三名おりました。次回以降選択の余地がないままに出口の見えない状況が続きましたが、希望者全員の就職が決まりました。

生徒は短期間で「就きたい職業とは何か」が問われます。新年度に向け生徒の職業観育成と、就職活動サポートの必要性を実感いたしました。

【県内企業】

コミヤマ、佐々木工業、ＪＡ佐久浅間、千曲技研、六甲バター、内堀製作所（二名）、長野計器、ミマキエンジニアリング、ラルージュアリオ上田店、シチズン時計マニュファクチャリング、しなの鉄道、中部電力長野支店（三名）、東京電力長野支店、太洋化学工業、中川電気工業（二名）、トーエネック、諏訪倉庫

【県外企業】

国立印刷局、日本貨物鉄道、日立ビルシステム関越支社

【公務員】

佐久市役所、長野県警（二名）、防衛省（三名）、海上保安庁

今年着任された先生方

敬称を略させていただきます

校長	池田　義則	東御清翔高校
国語	神津　純	上田高校
地歴公民	斎藤　卓也	東御清翔高校
地歴公民	早瀬　勝明	新規
数学	飯田　和紀	野沢北高校
理科	名取　秀夫	北佐久農業高校
理科	山崎　治道	上田高校
体育	畠山　泰悟	野沢南高校
芸術	土橋　東	東御清翔高校
芸術	花岡　淳一	上田千曲高校
英語	小林　澄光	坂城高校
英語	小岩井瑞恵	坂城高校
家庭	小林　眞隆	臼田高校
電気	小林　久栄	上田千曲高校
行政	大塚　章	上田高校
	神戸　淑子	小諸高校
	正村　久	新規
	森泉　千尋	新規

ご退職・ご転出の先生方

敬称を略させていただきます

校長	吉岡　道明	ご退職
国語	小林　敏明	文化財・生涯学習課指導主事
地歴公民	滝沢　千元	小諸商業高校
地歴公民	佐藤　真平	丸子修学館高校
数学	清水　竜也	野沢北高校
理科	林　秀徳	篠ノ井高校
理科	清水　啓	穂高商業高校
体育	石田　剛之	小諸商業高校
芸術	土屋　正敏	野沢南高校
芸術	海沼　利夫	上田染谷丘高校
英語	今井　芳史	野沢南高校
家庭	中沢ちか子	小諸商業高校
電子機械	宮本　孝次	松本工業高校
電気	荒川　昇	上田千曲高校
行政	波間　豊	ご退職
	畠山　隆幸	ご退職

同窓会活動協力金ありがとうございます

２０１４年3月末現在５０６名のＯＢの皆様から、**1、169、310円**いただいております。

一口１、０００円の皆様からの浄財は岩村田高校８４５名の在校生の学習活動、班活、校内の施設設備など、県の予算でカバーできないあらゆる教育活動にたいへん役立っています（同窓会報の会計報告決算をご覧下さい）。今回の90周年記念事業費約１、５００万円は毎年の在校生からの入会金を長年積み立てた積立金会計から支出しました。80周年で多額のご寄付をお願いしましたので今回は募金活動を行いませんでしたが10年後の１００周年に向けての募金を今後開始します。他校の同窓会のように年会費という形ではなく毎年できるだけ多くのＯＢの皆さんからの母校への応援という意味で任意の協力金というう形態をとっているからこそ、在校生の励みと力になります。同窓会報に添付の専用振込用紙をお使いになり通年受け付けておりますのでよろしくお願いします。尚、同窓会の名を語って個人情報を引き出そうとしたり、振り込みを誘う事件が後を絶ちません。同窓会では電話を使ってのこのようなお誘いは一切行っておりませんのでご注意下さい。また不明の場合は岩村田高校同窓会事務局に確認下さいますようお願いします。